

2026年1月6日

原子核談話会事務局 富田 夏希

「核物理委員会委員の選挙について」

原子核談話会の執行機関である核物理委員会委員の任期が2026年3月31日をもって終了します。原子核談話会規約第7条の規定により、次期委員の選出を下記の要領にて行います。別紙に資料として、現在の委員名簿と今回の候補者一覧と推薦・抱負文を添付しましたのでご参照下さい。

1. 選出人数 : 45歳未満の候補者2名と残る候補者から10名
2. 任期 : 2026年4月1日から2028年3月31日（2年間）
3. 被選挙資格 : 事前に立候補した、または推薦された候補者

[投票方法]

- 6名連記です。
- はじめに、2026年4月1日において45歳未満の候補者から上位2名を選出し、さらに、残る候補者から上位10名を選出します。
- WEBシステムによる電子投票を行います。
- 原子核談話会に登録されているメールアドレス毎に投票権を与えます。
- 別途送付されるメールにあるリンクからシステムにログインし、投票してください。
- 投票は一回で確定します。投票完了後の投票内容変更やリセット等は事務局でもできませんのでご注意ください。
- ご不明な点は、核談事務局（kakudan@rcnp.osaka-u.ac.jp）までお問い合わせください。

投票締切日：2026年1月13日（火） 23：00

添付書類

- （資料1）現 核物理委員会委員名簿
- （資料2）核物理委員 候補者・推薦者リスト
- （資料3）核物理委員 抱負文・推薦文

(資料1) 現 核物理委員会委員名簿

核物理委員長

川畑 貴裕 (大阪大学)

副委員長

中村 哲 (東京大学)

幹事

三輪 浩司 (東北大学)

鈴木 大介 (理化学研究所) (45 歳未満)

委員

青井 考 (東京大学 CNS)

上坂 友洋 (理化学研究所)

小沢 恭一郎 (KEK)

郡司 卓 (東京大学 CNS)

関口 仁子 (京都大学)

田村 裕和 (東北大学)

成木 恵 (京都大学)

藤岡 宏之 (東京科学大学) (45 歳未満)

西尾 勝久* (JAEA)

渡辺 裕* (KEK)

高橋 仁* (KEK)

中川 格* (理化学研究所)

本多 良太郎* (KEK) (45 歳未満)

中村 隆司* (東京科学大学)

若狭 智嗣* (九州大学)

志垣 賢太* (広島大学)

前田 幸重* (宮崎大学)

陪席 田中 万博 (KEK)

*) 補充委員 (注1)

職指定委員 (注2)

櫻井 博儀 (理化学研究所)

齊藤 直人 (KEK 素粒子原子核研究所長)

中野 貴志 (大阪大学 RCNP センター長)

連携委員（注 3）

小林 隆（J-PARC センター長）

酒見 泰寛（東京大学 CNS センター長）

大西 宏明（東北大学 RARiS センター長）

注 1

選挙後、地域や分野などを考慮して委員に加えられました。

注 2

職指定委員は共同利用研究所の所長・センター長として委員会に参加して頂いております。

自動的に委員となりますので被選挙資格はありません。

注 3

連携委員は、J-PARC センター、東北大学 RARiS、東大 CNS の代表の役目を兼ねる委員です。

施設の長が原子核談話会会員の場合、被選挙権を持ちますが、当人が選挙で選ばれなかった場合には連携委員として委員になっていただきます。

施設の長が原子核談話会会員でない場合には、自動的に連携委員になっていただきます。

連携委員は、職指定委員と異なり、委員会への出席にあたって代理を指名できます。

(資料2) 核物理委員 候補者・推薦者リスト

立候補 /推薦	候補者 氏名 45歳未満か	候補者 所属・職	推薦者 氏名	推薦者 所属・職
推薦	青井 考	東京大学 CNS 教授	上坂 友洋	理研 仁科センター 部長
推薦	石川 貴嗣	大阪大学 RCNP 教授	宮部 学	東北大学 RARiS 助教
推薦	上坂 友洋	理研 仁科センター 部長	青井 考	東京大学 CNS 教授
推薦	梅原 さおり	大阪大学 RCNP 教授	清水 裕彦 伏見 賢一 藤岡 宏之	名古屋大学 理学研究科 教授 徳島大学 理工学研究部 教授 東京科学大学 理学院 准教授
推薦	大田 晋輔	大阪大学 RCNP 教授	上坂 友洋	理研 仁科センター 部長
推薦	川畑 貴裕	大阪大学 理学研究科 教授	上坂 友洋	理研 仁科センター 部長
推薦	久保田 悠樹 (45歳未満)	理研 開拓研究所/仁科センター 研究員	中村 隆司	東京科学大学 理学院 教授
推薦	郡司 卓	東京大学 CNS 准教授	上坂 友洋	理研 仁科センター 部長
推薦	酒見 泰寛	東京大学 CNS 教授	梅原 さおり 吉田 齐	大阪大学 RCNP 教授 大阪大学 理学研究科 准教授
推薦	鈴木 大介 (45歳未満)	東京大学 理学研究科 准教授	青井 考	東京大学 CNS 教授
推薦	関口 仁子	京都大学 理学研究科 教授	青井 考 上坂 友洋	東京大学 CNS 教授 理研 仁科センター 部長
推薦	高橋 仁	KEK 素核研 教授	澤田 真也 中村 哲 成木 恵 三輪 浩司	KEK 素核研 教授 東京大学 理学研究科 教授 京都大学 理学研究科 教授 東北大学 理学研究科 教授
推薦	高峰 愛子	九州大学 理学研究院 准教授	上野 秀樹	理研 仁科センター 部長
推薦	中川 格	理研 仁科センター 専任研究員	磯部 忠昭	理研 仁科センター 専任研究員
推薦	中村 哲	東京大学 理学研究科 教授	澤田 真也 三輪 浩司	KEK 素核研 教授 東北大学 理学研究科 教授
推薦	中村 隆司	東京科学大学 理学院 教授	青井 考	東京大学 CNS 教授
推薦	成木 恵	京都大学 理学研究科 教授	澤田 真也	KEK 素核研 教授
推薦	西尾 勝久	JAEA 先端基礎研究センター グループリーダー	青井 考 浅井 雅人	東京大学 CNS 教授 JAEA 先端基礎研究センター 研究 主幹
推薦	西村 太樹 (45歳未満)	東京都市大学 理工学部 准教授	高峰 愛子	九州大学 理学研究院 准教授
推薦	藤岡 宏之	東京科学大学 理学院 准教授	梅原 さおり 嶋 達志 清水 裕彦	大阪大学 RCNP 教授 大阪大学 RCNP 准教授 名古屋大学 理学研究科 教授

推薦	本多 良太郎 (45 歳未満)	KEK 素核研 准教授	磯部 忠昭	理研 仁科センター 専任研究員
推薦	三木 謙二郎 (45 歳未満)	東北大学 理学研究科 准教授	磯部 忠昭	理研 仁科センター 専任研究員
推薦	三輪 浩司	東北大学 理学研究科 教授	澤田 真也 中村 哲 成木 恵	KEK 素核研 教授 東京大学 理学研究科 教授 京都大学 理学研究科 教授
推薦	渡邊 裕	KEK 素核研 教授	青井 考	東京大学 CNS 教授

青井 考 (東京大学 CNS 教授)

核物理委員候補に推薦頂きありがとうございます。日本にはエネルギー領域やビームの種類、分解能など多様な観点で世界一級の加速器施設や実験装置が整備されており、テーブルトップの小規模実験から大規模施設を用いた大型研究に至る各種の独創的な研究が行われています。さらにアジア各国でも新しい加速器が稼働をはじめ、加えて全世界的な大型計画も動き出すなど、原子核分野はとても躍動的な状況にあります。この恵まれた環境を限られた人や予算で最大限活用するために核物理委員会に期待される役割はこれまで以上に増していると感じております。微力ではありますが、核物理分野の発展に少しでも貢献できればと思います。

推薦者 上坂 友洋 (理研 仁科センター 部長)

日本のガンマ線分光、特にトラッキングゲルマニウム検出器開発、それを用いた研究を牽引されている方です。核物理委員会では、常に中立的な視点を持ち、隅々まで目を行き届かせた上で発言なさり、健全な運営に貢献をなさっています。核物理委員として相応しい方だと考えます。

石川 貴嗣 (大阪大学 RCNP 教授)

次期核物理委員候補にご推薦頂き誠にありがとうございます。私は、これまで主として東北大学電子光物理学研究センターの制動放射光子ビーム、大型放射光施設 SPring-8 のコンプトン散乱光子ビームを使ってハドロン物理現象を調べてきました。最近では J-PARC のハドロンビームを使ったハドロン物理にも取り組んでおります。

これまで日本の核物理分野は、国内外の施設において、不安定核を含む原子核や核物質の構造、ハドロンを通じたクォークやグルーオンの動力学、素粒子物理や医療・産業への応用など多種多様な研究を牽引してきました。しかしながら予算状況は厳しく、将来の見通しが持ちにくい状況となっています。世界最先端の国内施設として、J-PARC ハドロンホール拡張計画の実現や RIBF の高度化は是非実現したいことです。その一方で、全ての施設を国内で維持することは困難であり、米国における EIC 実験を含めて、海外の加速器施設における共同実験の拡大も必要であると考えます。国内に光子ビーム施設を残すべきか否かをみなさんと共に真剣に考えたいと思います。いずれにしろ核物理が魅力的な研究分野として学生を引きつけ、若手研究者がトップ研究者になれるような環境の醸成が重要です。今後の核物理の分野の発展のために微力を尽くしたいと思います。

推薦者 宮部 学 (東北大学 RARiS 助教)

RCNP の石川貴嗣教授を核物理委員会に推薦します。

石川教授は JPARC や SPring-8/LEPS2、RARiS を主戦場として実験核物理における多くの業績と卓越したリーダーシップを持ち、原子核・素粒子コミュニティへ多大な貢献をしています。

前職の東北大学時代から現職に至るまで次世代研究者育成にも熱心で、委員会とコミュニティの発展に不可欠な人材です。

上坂 友洋 (理研 仁科センター 部長)

研究面では、これまで行ってきた RIBF や RCNP での研究に加え、仁科センターのマルチスケール量子ダイナミクス連携研究部にて郡司さんらと力を合わせ行うエネルギースケールや階層を超えた研究推進を通じて、原子核物理学の豊かさや新たな価値を見出して行きたいと考えています。加えて、3年間務めることとなった ANPhA 議長として、アジア全体での原子核物理学の活性化を進め、それを通じて日本のコミュニティ盛り上げに尽力したいと思っています。

推薦者 青井 考 (東京大学 CNS 教授)

核構造・核反応研究の分野で中心となって活躍している研究者で、RIBF を牽引するとともに様々な加速器施設で研究を展開されています。ANPhA 副委員長はじめ国内外の各種委員会で要職を務めておられるなど核物理コミュニティの運営に深く尽力されており、核物理委員会になくてはならない方といえます。

梅原 さおり (大阪大学 RCNP 教授)

ご推薦いただきありがとうございます。

研究に携わる者にとって、研究を継続できる環境が確保されることは、大型プロジェクト・小規模プロジェクトといった研究規模を問わず、共通の想いであると考えています。

一方で、研究を支える予算や制度は、研究者とは異なる立場・時間軸・評価軸のもとで考えられています。特に予算規模の大きなプロジェクトにおいては、研究成果がもたらす社会的インパクトや、将来にわたって研究成果を生み出し続ける研究コミュニティの持続性といった観点から、予算を担う側にとって重要な要素となります。各研究拠点や施設が示す将来計画、また大学における若手育成の取り組みは、こうした期待に応える重要な要素である一方で、その背景や目的、時間軸については、研究者側と制度・予算を担う側とで必ずしも一致していないと感じることもあります。

私自身、共同利用・共同研究拠点到に所属し、将来計画の立案に関わる立場にいるからこそ、制度側の視点と研究現場の実情との間に生じやすいずれを実感する機会も多く、研究者側の多様な取り組みをどのように整理し、伝えるかが重要であると考えてきました。

大型・中小規模の研究、また大学研究科と共同利用・共同研究拠点がそれぞれ担う役割や意義が、相互に補完し合う関係として分野全体で共有されるよう、研究現場と制度の間をつなぐ視点から貢献していきたいと考えています。微力ではありますが、原子核物理分野が今後も持続的に発展していくための議論を支える一員として務めてまいります。

推薦者 清水 裕彦 (名古屋大学 理学研究科 教授)

梅原さおり氏は、核二重ベータ崩壊の研究を長年推進し、稀な原子核過程の研究を一つの分野として総合的に推進されている。特に地下実験を通じて宇宙線及び高エネルギー分野との連携の中心人物の一人としてコミュニティ形成に尽力されており、原子炉からのニュートリノや中性子に関する研究にも幅を広げている。分野横断的な連携をもとにして、核物理の発展の重要な一翼を担う人材として核物理委員に適任と考え、梅原氏を推薦する。

推薦者 伏見 賢一 (徳島大学 理工学研究部 教授)

梅原氏は、二重ベータ崩壊の実験的研究を中心として、実験核物理学および素粒子物理学の境界領域の融合と発展に取り組んできた。地下の低バックグラウンド環境下における高感度核分光学の発展に努め、分野の発展をリードしてきた業績は大きい。原子炉ニュートリノの性質を核分光的に研究するプロジェクトも推進している。梅原氏が有する原子核物理学の幅広い知見と行動力によって原子核物理学の発展に貢献してもらいたい。

推薦者 藤岡 宏之 (東京科学大学 理学院 准教授)

原子核物理コミュニティは、加速器実験のみならず非加速器実験も重要な研究活動の柱としています。素粒子物理・宇宙線物理にまたがる学際的な $0\nu 2\beta$ 崩壊探索を行っている CANDLES 実験を主導されている梅原氏が核物理委員に加わることで、原子核物理の研究領域の多様性がより適切に反映され、コミュニティ全体の発展に大きく寄与すると確信し、同氏を推薦いたします。

大田 晋輔 (大阪大学 RCNP 教授)

核物理委員会委員にご推薦いただきありがとうございます。

私はこれまで原子核の性質から状態方程式や核子超流動の解明を目指す実験・理論両輪の「PHANES」プロジェクトを立ち上げ RCNP および RIBF を拠点に研究を推進してきました。一方で、このような物理研究を支えて加速させるための実験基盤である、データ収集システムの標準化を目指す「SPADI Alliance」の設立・運営を主導してきました。

SPADI Alliance の理念は「システムの共通化によって、持続的な保守・高度化体制を整え、物理を楽しむ時間を増やす」ことです。この理念のもと議論を尽くして進めることで、標準化の道が拓け、小規模なグループでも最先端技術活用が可能になっています。また、人材交流も促進され、私自身、J-PARC、や EIC など新しいプロジェクトへの参加の機会を得ました。いまこの「横のつながり」はコミュニティや国境の枠を超えて広がりつつあります。

私は、物理と技術またそれぞれを結ぶ「横のつながり」が今後の発展の鍵と考えて、委員会においても多様な意見を共有しながら、以下の三点を重要な論点として取り組んでいきたいと考えています。(1) 技術の横展開：DAQ や検出器技術を共有財産化し、研究の裾野を広げコミュニティの活力を高める。(2) 施設の協創：巨大施設や中規模施設間の連携を深め、安定的な予算獲得と研究の多様性の両立を測る。(3) 人の多様性：学生、若手研究者、技術者のキャリアパスの拡充に取り組む

原子核コミュニティの発展とその研究環境を将来にわたり維持・改善するため、微力ながら全力で貢献してまいります。あわせて、原子核物理の学術価値と将来展望を、社会や次世代を担う学生にわかりやすく発信する役割にも積極的に取り組みます。

推薦者 上坂 友洋 (理研 仁科センター 部長)

RCNP と RIBF をまたぐ核物質研究プロジェクト PHANES を立ち上げられ、その実験研究を進めるのと平行して、SPADI アライアンスの議長として国内のデータ収集系開発連携を主導されてきました。核物理委員会に推薦されるのは初めてとなりますが、新しい風を入れていただくことが期待できる候補です。

川畑 貴裕 (大阪大学 理学研究科 教授)

核物理委員に選出された場合には、原子核実験コミュニティの将来計画の実現に努力したいと思います。EIC 建設へ向けた枠組みが動き始めた一方で、RIBF の高度化とハドロンホール拡張計画はいまだ実現の見通しが立っていません。大阪大学核物理研究センターや東北大学先端量子ビーム科学研究センターの将来計画についても検討を行い、コミュニティの発展に貢献したいと思います。

推薦者 上坂 友洋 (理研仁科センター 主任研究員)

阪大 RCNP を中心とされながらも、その他の小規模加速器施設も活用し、独自のクラスター物理研究を推進されています。同時に、核物理委員長として核物理分野全体の発展のために大きな貢献をされてきた方であり、核物理委員として相応しい方として推薦いたします。

久保田 悠樹 (理研 開拓研究所/仁科センター 研究員) (45 歳未満)

この度は核物理委員会候補に推薦頂き、大変光栄に存じます。

現在、核物理委員会主導の将来計画検討 WG にて不安定核分野を担当し、10 年、20 年先の日本の核物理を見据えた議論に参加させていただいております。世界各地で稼動を始めた第三世代 RIB 施設との熾烈な競争の中、これまで日本が牽引してきた不安定核研究の継続的な発展と、EIC を筆頭とする新たな大型国際プロジェクトにおける、クラスター物理をはじめとする日本独自の視点の発揮は、車の両輪として推進すべき重要課題であると考えます。委員に選出された際には、若手・中堅研究者の視点も取り入れながら、実効性のある将来計画の立案と、多様な研究が展開できる環境作りに向けて、微力ながら貢献したいと存じます。

推薦者 中村 隆司 (東京科学大学 理学院 教授)

久保田さんは不安定核分野の中堅若手研究者で、研究面はもとより国際ワークショップの議長を務めるなど、最近目覚ましい活躍をされています。現在、核物理委員会主導の将来計画検討 WG で不安定核を担当しており、EIC についても不安定核・クラスター物理の立場から積極的に関与されていて、核物理の将来計画を立案する上でも実力を発揮される若手研究者だと思います。

郡司 卓 (東京大学 CNS 准教授)

核物理委員候補としてご推薦いただき、大変光栄に存じます。

私はこれまで、BNL (米国) や CERN (欧州) を中心に、高エネルギー原子核物理の国際共同研究に携わってきました。現在は、ePIC 実験の日本側代表として、日本の EIC 参画計画を主導し、日米欧の研究者と連携しながらその具体化に尽力しています。

EIC 計画は、近年、日本においても予算化に向けた大きな動きがあり、原子核物理を起点として、クォーク・グルーオンから原子核・物質に至る新たなマルチスケール科学を展開する重要な契機になると考えています。EIC の成果を先読みしつつ、J-PARC、RIBF、海外大型施設との連携を戦略的に深め、日本の原子核物理全体の発展につなげていきたいと考えています。

また、限られた予算・人的資源の中で国際的な存在感を維持・強化するためには、国内技術の国際標準化による日本への求心力の確保と同時に、海外の先進的な技術や研究手法を日本に積極的に持ち込むことが不可欠です。海外で研究・実験を行うことは、日本の施設やコミュニティに新たな発展をもたらす重要な使命であると考えています。

さらに、量子技術、量子計算、AI・データ科学など、社会的関心が高く、若い世代からも魅力的に映る分野と原子核物理を結びつけることで、学術的にも社会的にも存在感のある原子核物理を築いていきたいと考えています。核物理委員として、施設やエネルギー領域の垣根を越えた議論を主導し、日本の原子核物理が次の世代に「夢」と「展望」を示せる分野であり続けるよう、微力ながら貢献したいと考えております。

推薦者 上坂 友洋 (理研 仁科センター 部長)

EIC-Japan の代表として、日本の EIC 参画計画を主導されている方であり、今後日本の核物理コミュニティに関する議論を進める上で欠くことのできない方です。高エネルギー実験から低エネルギー実験を跨ぐ視点に基づき、その視点から EIC の物理を発展させる視野をお持ちであり、核物理委員として施設を跨ぐ議論を主導していただきたいと考えます。

酒見 泰寛 (東京大学 CNS 教授)

核物理は、基礎から応用、さらに学際的領域へと広がり続けており、その発展には、長期的な視点に立った継続的な取り組みと、分野の枠を越えた交流、新たな人材の参画を着実に育んでいくことが大切になってきています。近年、基礎物理分野では、地下稀事象探索やミュオン・中性子・反陽子・不安定核などの二次粒子を用いた実験、さらには超精密量子計測といった多様な実験手法が発展し、原子・分子物理、量子エレクトロニクス、放射化学など、幅広い分野との連携のもとで新たな展開が生まれています。こうした発展の根幹には、原子核物理の深化が基盤となっています。国内外の核物理関連施設を舞台に、核物理・基礎物理、従来の枠を超えた多様なバックグラウンドを有する研究分野が有機的につながる機会を着実に広げ、研究分野の垣根を越えた新たな活動へと結実していくよう、コミュニティの発展に貢献していきたいと考えています。

推薦者 梅原 さおり (大阪大学 RCNP 教授)

酒見泰寛氏は、低エネルギーから高エネルギーまでさまざまな量子ビームと原子核を用いた基本対称性の破れに関する研究を精力的に推進され、基礎物理実験分野の研究者として活躍されている。また、研究者としての活動に加えて、CNS センター長の他、複数の運営役職を務め、研究政策・学術運営の推進にも大きく寄与してこられた。その幅広い視野、長期的な研究基盤の整備に関する知見は、将来計画を実現することが役割の核物理委員会活動に求められる役割とよく合致している。したがって、核物理委員として適任であると考え、ここに推薦する。

推薦者 吉田 斉 (大阪大学 理学研究科 准教授)

酒見氏は、低エネルギー量子ビームや原子および原子核の量子多体系の特性を利用して、基本対称性の破れの探索を行うなど、基礎物理実験分野で世界最先端の研究を進める研究者として活躍しておられます。また、東京大学原子核科学研究センターのセンター長として核物理コミュニティの重要施設を運営する役割を果たされており、核物理分野の発展や将来計画の策定・実現に力を発揮していただきたく核物理委員会委員として推薦したいと思います。

鈴木 大介 (東京大学 理学研究科 准教授) (45 歳未満)

次期核物理委員候補としてご推薦いただきましたことに、心より感謝申し上げます。

現在、核物理コミュニティでは将来計画の検討が進められており、私自身もその検討作業に関わってまいりました。従来の日欧米を中心とした大型加速器施設は変革期を迎えています。それに加えて、アジア地域においても新たな大型施設が建設され、本格的に始動しつつあります。このように国際的な研究環境が大きく変化する中で、国際連携・共創の重要性は今後ますます高まっていくと考えられます。今後世界をリードしていくためにも、将来検討の議論をコミュニティとして共有できる長期的なビジョンとして結実させていくことが重要です。核物理委員として、これまでの経験を生かし核物理コミュニティの発展に微力ながら貢献していきたいと考えております。

推薦者 青井 考 (東京大学 CNS 教授)

RIBF を中心として世界の加速器施設を股にかけ、自身で開発した様々な検出器を武器に広い視点で様々な核構造問題に挑戦されています。核物理委員会将来計画ワーキンググループの若手サブグループの全体取りまとめ役を務めるなど原子核科学を牽引する中心人物の一人として活躍されており、核物理委員に相応しい方として推薦いたします。

関口 仁子 (京都大学 理学研究科 教授)

核物理委員に推薦頂きありがとうございます。

委員に選出された際には、原子核物理分野の発展に微力ながら貢献したいと考えております。

現在、日本の原子核物理分野は、世界を牽引する実験施設を有する立場にあります。長年に渡って議論されてきた物理が、Made in Japan の成果として花開きつつあります。一方、その成果を踏まえ我々は、諸外国との関係も視野に新しい展開を考えて行かねばならない時期でもあります。10 数年先の核物理の将来を見据えた議論に積極的に関わりたいと考えています。2027 年度には日米合同分科会を控えております。日本の国際的な visibility を確固たるものとすべく、尽力して参りたいと思います。

また、大学教育に関わる立場から、若手の育成の重要性であると考えております。中でも、実験核物理にとって加速器実験による教育は非常に重要な項目と考えております。国内の中小規模の加速器施設における学生教育など、様々な形で若手育成の拡充を検討して行きたいです。

推薦者 青井 考 (東京大学 CNS 教授)

少数系物理を牽引する研究者で、その業績が高く評価されていることは ERATO を獲得・推進されていることや、多数の賞を受賞されていることからもうかがえます。運営面においても学術会議の連携委員、核物理委員などを歴任され、次回の日米合同物理学会の日本側議長を務めるなど重責を担っていることから核物理委員に相応しい方です。

推薦者 上坂 友洋 (理研 仁科センター 部長)

少数系の実験研究を牽引されると同時に、核物理では初となる ERATO を獲得され応用研究を含む幅広い研究を統括されています。コミュニティの運営面では、次回の日米合同学会の議長を務められており、核物理委員として相応しい方として推薦いたします。

高橋 仁 (KEK 素核研 教授)

私は、KEK ビームチャンネルグループに就職して以来、12 GeV-PS カウンターホールと J-PARC ハドロン実験施設の建設・運転・維持管理に従事してきました。J-PARC は今、高騰を続ける電気代に設備の老朽化と、施設の現状維持さえままならない苦しい状況にあり、それは他の多くの加速器施設でも共通する問題だろうと思います。加えて、KEK 自体が、(財政的な余裕が無くなったことが主な原因だと思いますが) 大学共同利用機関としてのあり方、コミュニティとの関係性を変えようとしており、これまでのようなボトムアップによるプロジェクトの推進がどんどん困難になってきていると感じています。とりわけ、KEK の中では非主流である我々原子核物理コミュニティは、このままいくとますます苦しい立場に追いやられると危機感を募らせています。そのような状況を打破できるのはやはり、新しい若い力です。いかにして、若い人たちを呼び込むのか、いかにして若い人たちにとって魅力ある業界にしていくのか、皆さんと共に考えていきたいと思っています。

推薦者 澤田 真也 (KEK 素核研 教授)

高橋さんは、原子核・ハドロン分野の基幹施設一つである J-PARC ハドロン実験施設の運営や将来計画の策定の中心人物です。核物理委員会にてこの分野の将来計画を具体的に考えていくにあたり不可欠な方として推薦します。

推薦者 中村 哲 (東京大学 理学研究科 教授)

世界的にも極めて重要な大型加速器研究施設である J-PARC においてハドロン研究、特に施設の運営を主導し、ハドロン実験施設拡張計画等の将来計画を牽引するリーダーである。今後の日本の原子核物理学の発展のためにも、是非とも核物理委員会委員としてコミュニティに貢献していただきたい。

推薦者 成木 恵 (京都大学 理学研究科 教授)

高橋仁氏は、J-PARC ハドロン施設の維持・建設において中心的な役割を果たし、そこで展開される実験研究を力強く推進してきました。常に真摯な姿勢で課題に取り組み、KEK が原子核研究を推進する上で欠かすことのできない存在です。さらに、分野における実験施設の重要性を深く理解し、その将来的な発展においても不可欠な人物であると確信しています。以上の理由から、高橋氏を推薦します。

推薦者 三輪 浩司 (東北大学 理学研究科 教授)

高橋仁氏は、J-PARC ハドロンホールのリーダーとして、ユーザーが同ホールで多様な実験プログラムを実施できるよう基盤整備を進めるとともに、将来の拡張計画を推進する施設責任者です。また、J-PARC における原子核・ハドロン研究の将来戦略を議論する上でも欠かせない存在であり、核物理委員への推薦にふさわしい人物です。

高峰 愛子 (九州大学 理学研究院 准教授)

このたび核物理委員としてご推薦いただき、深く感謝を申し上げますと共に恐縮しております。

これまで低エネルギー RI イオンの制御技術開発やレーザー分光、高精度質量測定を通じて、原子核物理と原子物理の境界領域における研究に携わってまいりました。このような境界領域研究に携わってきた立場から、研究基盤整備と他分野にも面白さが伝わる物理展開を両立させていくことの重要性を、日々実感しております。

委員に選出された折には、こうした立場から得られた経験や課題意識を大切にしながら、国内外の大型施設の有効活用や研究コミュニティの持続的発展に少しでも貢献できるよう、微力ながら誠実に務めてまいりたいと考えております。特に、実験手法・装置開発と物理成果を結びつける観点から、多様な研究分野や世代をつなぐ建設的な議論に加わることができれば幸いです。

推薦者 上野 秀樹 (理研 仁科センター 部長)

高峰氏は主に理研 RIBF において低エネルギー領域の RI イオン制御技術の開発と高精度 RI 質量測定などへの利用展開、およびレーザー分光研究などで成果をあげている女性研究者です。低エネルギービーム実験や原子物理学との境界領域研究などの観点などから委員会活動への貢献が期待されます。

中川 格 (理研 仁科センター 専任研究員)

核物理委員候補に推薦頂きありがとうございます。

核物理委員として大事な責務は、分野を横断的に俯瞰し分野の発展に尽力することだと思っています。私は過去20年間高エネルギー核子構造と重イオン衝突実験研究に取り組んできていますが、大学院時代から東北大 RARiS、旧核研、RCNP、MIT-Bates、マインツ大 MAMI、Jefferson 国立研究所の実験に参加し数十 MeV から 500GeV まで徐々にエネルギーを上げながら現在の高エネルギー実験研究に行き着いています。国内外の実験施設で低エネルギーから高エネルギーの実験に携わっていた経験を活かし、広い視野で分野の発展に貢献したいと考えています。領域への貢献の実績としては、2016 年から原子核研究の編集委員を務めており、今年から編集委員長としてやはり領域を俯瞰する立場になっており、今年度の領域代表と合わせ領域の発展に微力ながら尽力しています。

推薦者 磯部 忠昭 (理研 仁科センター 専任研究員)

中川氏は長年 BNL-RHIC 加速器におけるハドロン実験に従事してきました。sPHENIX 実験における INTT システムの構築に長年苦勞しながらも成功し、今まさに実験が遂行されています。氏は次期計画である EIC に従事しています。中川氏は次世代計画である EIC 計画における重要なキーパーソンだと思いますので、核物理委員に推薦させていただきます。

中村 哲 (東京大学 理学研究科 教授)

米国における EIC の準備が本格化する中、これを契機として J-PARC ハドロンホール拡張計画、RIBF アップグレード等の国内の核物理研究にとって極めて重要なプロジェクトもまた同時に前進する必要があります。高・中間・低エネルギーの全てのエネルギー領域において世界の最先端で研究を推進してきた日本の核物理研究者が今後も最先端で研究を推進できるように、核物理委員という責任ある立場でコミュニティの発展に貢献できれば、とても嬉しく思います。大学に籍を置く者として次世代の研究者をどのように育成していくか、またこれまで国内外の加速器施設において研究を推進してきた経験を活かして日本の核物理研究をどのように牽引、発展させていくかについて、積極的に貢献できるよう努力したいと思います。

推薦者 澤田 真也 (KEK 素核研 教授)

中村さんはドイツ MAMI や米国 JLab でのストレンジネス核物理の研究を精力的に行ってこられました。それ以外にミュオンの研究にも携わるなど幅広い視野をお持ちです。

推薦者 三輪 浩司 (東北大学 理学研究科 教授)

中村氏は、非常に高い見識、広い国際的なネットワーク、さらには大きな国際会議・スクールを取り仕切るマネジメント力を持ち合わせ、今後の核物理コミュニティを先導する上で欠かせない人物であると考え、中村氏を推薦いたします。

中村 隆司 (東京科学大学 理学院 教授)

ご推薦いただきありがとうございます。近年、RIBFをはじめとする加速器施設で運転時間が減少しています。核物理委員会を通じて施設の関係者とも継続的に議論し、事態の改善に尽力したいと思います。また、将来計画の策定においては、若手による活発な議論を促し、その取りまとめなどで貢献したいと考えています。一方、KEK 素核研の運営委員を務めておりますが、核物理コミュニティを代表し、J-PARC ハドロン実験や KISS 実験がより進展するよう、尽力したいと存じます。

推薦者 青井 考 (東京大学 CNS 教授)

RIBF における研究の柱の 1 つである SAMURI 計画を牽引してこられ、様々な重要な成果を上げられています。国内では大型科研費を次々と獲得されて辣腕を振るわれる一方で国際的な認知度も高く、原子核分野における中心人物の一人といえます。現核物理委員としても鋭い視点からの貴重な発言が多く、今後も引き続き活躍して頂くべく次期委員に推薦いたします。

成木 恵 (京都大学 理学研究科 教授)

私はこれまで、KEK-PS や J-PARC を中心に中間エネルギー領域でのハドロン物理研究を進めてきました。J-PARC ハドロン実験施設は完成から約 15 年が経過し、現在では多彩な研究が本格的に展開される段階にあります。今後も、施設の拡張計画や重イオン計画の実現に向けて尽力したいと考えています。一方で、中長期的な分野の発展を見据えると、現行の施設や既存の潮流にとらわれない多様なアプローチが重要だと感じています。実験核領域は、原子核物理学とハドロン物理学を含む豊かな分野であり、両者の融合的な研究も進展しています。こうした研究の多様性は、若手研究者のキャリア形成にとっても不可欠です。アジアや欧米との国際的な技術・研究協力を視野に入れながら、独創的で多彩な研究環境の実現に貢献したいと考えています。委員になりましたら、今後の分野の発展に力を尽くしたいと思います。

推薦者 澤田 真也 (KEK 素核研 教授)

成木さんは J-PARC ハドロン実験施設にて精力的にハドロン物理に関する研究を展開し、多くの大学院生の指導を行っておられます。RCNP での原子核・ハドロン物理を含め、この分野の現在進行中および将来の研究を考える上で必要不可欠な方として推薦します。

西尾 勝久 (JAEA 先端基礎研究センター グループリーダー)

原子力機構 (JAEA) のタンデム加速器施設 (東海) は、アルファ放射性核種である様々なアクチノイド試料 (RI や核燃料) を重イオン照射できる特徴があります。JAEA は、これを活かし、重元素領域に特徴のある核物理・核化学・材料研究を推進するとともに、幅広い分野の国内外ユーザーにビームを供与しています。次の計画として、重イオンビームの大強度化と到達エネルギーの増大を可能にする超電導線形加速器の構築を提案しており、汎用性の高い重イオンビームの供給によって多くの研究分野の発展に貢献する考えです。この加速器は、J-PARC HI の入射器にも位置付けるもので、この実現により、さらに高いエネルギーでの実験が可能になります。

原子力の利用は、核物理、核データ、原子炉物理、炉設計へと、ミクロな世界から大規模なシステムにつながる各階層間の連携で成立していますが、これらの研究開発を総合的に進めている JAEA の役割は、核物理の知見を社会実装につなげる上でも重要と考えています。

核物理委員会では、JAEA に求められる役割を認識しながら、コミュニティの期待に応えられるよう努力したいと考えています。

推薦者 青井 考 (東京大学 CNS 教授)

JAEA 極限重元素核科学研究グループのグループリーダーとしてタンデム加速器における核物理および核化学研究を牽引してこられると同時に、将来計画の立案に携わっておられます。核物理委員会と密接な情報共有体勢を維持することが不可欠であると考え、核物理委員に推薦いたします。

推薦者 浅井 雅人 (JAEA 先端基礎研究センター 研究主幹)

西尾氏は JAEA 先端基礎研究センター極限重元素核科学研究グループのグループリーダーとして、主に JAEA のタンデム加速器を用いた核反応、核分裂、核構造研究を牽引している。JAEA タンデム加速器を用いた国内・海外の核物理実験ユーザーの受け入れ窓口であり、JAEA の新しい重イオン加速器計画を主導するなど、核物理分野の現在及び将来の研究活動に一定の影響を持つポジションにあり、核物理委員に適任であると考え推薦する次第です。

西村 太樹 (東京都市大学 理工学部 准教授) (45 歳未満)

日本物理学会実験核物理領域の運営委員や RIBF Users Group 組織委員としての経験を活かし、原子核物理全体を俯瞰した視点から将来計画や研究環境の発展に貢献したいと考えています。特に、学生から若手研究者への円滑な接続を重視し、コミュニティの持続的成長に資する建設的な議論に尽力します。

推薦者 高峰 愛子 (九州大学 理学研究院 准教授)

西村さんは RIBF を中心として、相互作用断面積測定や崩壊分光を精力的に進めていらっしゃいます。様々な研究会や委員会で建設的な意見を述べられる方です。原子核物理を広い視野で俯瞰してコミュニティの発展にご尽力いただける方と考え、核物理委員会 次期委員に推薦いたします。

藤岡 宏之 (東京科学大学 理学院 准教授)

核物理委員にご推薦いただきありがとうございます。45歳未満の委員を増やすという方針のもと、皆様からご推薦・ご投票をいただき、これまで2期4年間核物理委員を務めさせていただきました。

実験核物理という分野は、原子核やハドロンを多種多様な切り口で理解することを目指した curiosity-driven な研究を推進できることが魅力だと考えています。一方、実験核物理は決して「孤立系」ではなく、他分野との競合に常に晒されているのも事実です。生存戦略として近隣分野との互恵的連携は今後より一層重要になると考えます。

私が関係している具体例として、もんじゅサイトに設置予定の新試験研究炉では、中性子を用いた学術・産業利用が大きな目的ですが、実験装置検討のタスクフォースの1つとして素粒子原子核タスクフォースが立ち上がっています。2022年度に核物理委員会でご審議いただき、新試験研究炉推進室に要望書を提出していただいたことが転機となりました。しかしながら、研究炉建設そして実験遂行は10年、20年のスパンで考える必要があり、装置開発や関連研究だけでなく人材育成・交流を戦略的に進めていくことになります。

加速器を用いた実験、非加速器の実験、ともに実験核物理の重要な柱であり、研究の多様性が実験核物理分野の強みと言えます。核物理コミュニティ全体の発展に微力を尽くす所存です。何卒よろしくごお願い申し上げます。

推薦者 梅原 さおり (大阪大学 RCNP 教授)

藤岡宏之氏は、ハイパー核物理・ハドロン物理だけでなく、中性子物理・原子核物理など、幅広い分野にわたって研究テーマを持たれており、そのそれぞれで活躍されている。最近では、核物理将来検討 WG の基礎物理班でも大きな役割を果たしておられる。特定分野に縛られずさまざまな分野と連携し、成果をあげられている藤岡氏には、核物理コミュニティが関わる幅広い研究分野をカバーする核物理委員として、引き続き活動していただきたい。

推薦者 嶋 達志 (大阪大学 RCNP 准教授)

同氏は、ハドロン物理、エキゾチック原子物理、中性子基礎物理など、核物理領域内の幅広い分野にかけて活躍しておられ、また日本物理学会・実験核物理領域の運営にも貢献しておられます。また最近、新しいテトラニュートロン探索法として原子炉を用いた手法を提案され、現在建設計画が進行中の研究用原子炉での研究テーマとして注目されています。以上から核物理委員会委員にふさわしい方と考え推薦する次第です。

推薦者 清水 裕彦 (名古屋大学 理学研究科 教授)

藤岡宏之氏は、ハイパー核・ハドロン物理に端を発し、原子核物理全般や基礎物理の研究を推進されている。専門分野外の造詣も深く、基礎知識の正確さと論理展開の緻密さを基盤に新分野への確実なアプローチを実践されている。一方、核物理将来検討 WG において、基礎物理との有機的な連携を進めてもおられる。核物理コミュニティを俯瞰的に見渡し、将来を展望する上で欠かせない人物として核物理委員に適任と考え、藤岡氏を推薦する。

本多 良太郎 (KEK 素核研 准教授) (45 歳未満)

核物理委員にご推薦いただき光栄に思います。私はこれまで J-PARC のハイパー核実験に携わり、現在では KEK 素核研において素粒子原子核実験に必要な最新のデータ収集技術開発を専門としています。また、現在私は Open-It の運営、SPADI alliance の戦略会議委員、および Collider Electronics Forum の戦略会議委員を務めており、素核コミュニティ内の連携創出に大きく貢献しております。

DAQ の高度化には新しい実験を可能するという即効性だけでなく、将来の実験や人材への長期的投資という面があります。DAQ 開発においても機関・施設の壁を越えて原子核コミュニティとして中長期ビジョンをもち、全体としてそれを支えていく必要があると考えています。Open-It や SPADI-A の活動はその一助であると信じております。

核物理委員に選出された際には、DAQ 技術の観点から原子核物理の将来を考え、より一層の貢献ができるよう努力いたします。現在、原子核の将来計画 WG のサブグループとして DAQ サブ WG のコンタクトパーソンを務めており、長期戦略を練るにあたって SPADI-A との連携ないし統合を主導してまいります。

推薦者 磯部 忠昭 (理研 仁科センター 専任研究員)

本多氏は読み出し回路のエキスパートであるハドロン研究者です。一言に読み出し回路と言っても様々ですが、その次世代化により新しい物理を切り拓いていくことも可能になります。一方で原子核実験の大型化複雑化に伴い、10年後、20年後の実験技術を見据えた広い視野での R&D 戦略は J-PARC・RIBF といった国内基盤施設の次世代化と同等に必要なだと思えます。本多氏は若手ながら OpenIt や SPADI など国内開発コミュニティへの貢献はフラットで大きなものであり、実験原子核物理学の将来を担っていく研究者であると強く思いますので核物理委員に推薦させていただきます。

三木 謙二郎 (東北大学 理学研究科 准教授) (45 歳未満)

ご推薦を頂きありがとうございます。

私はこの2年間、RIBF Users Groupの代表を務め、RIBF コミュニティにおいて、ユーザーが将来計画に関与していくための環境づくりに協力してまいりました。今後、核物理委員会委員として活動する機会をいただけたら、これまでの取り組みを踏まえつつ、原子核物理分野全体が相互に連携し、建設的に前進できるよう、微力ながら貢献していきたいと考えております。

また、私自身、近年はRIBFを研究の主要拠点として活動してまいりましたが、現在、国内の大型加速器施設はいずれも運転時間の制約という共通の課題を抱えているのが実情です。その状況の改善を求めていくと同時に、地方の中小規模施設との連携を強化することで、研究基盤の多様性を保ち、より安定した研究体制を支えていくことが重要であると考えております。あわせて、若手研究者が継続的に実験の経験を積める環境を整えていきたいと考えております。

東北大学は、複数の中小規模施設を有する拠点であると同時に、多様なエネルギー領域の研究者が交差し、交流する環境にあります。その特性を活かしつつ、上述の観点を意識しながら、原子核物理分野全体の発展に寄与していきたいと考えております。

推薦者 磯部 忠昭 (理研 仁科センター 専任研究員)

三木氏は主に中性子による少数系の実験的研究を行っています。革新的なアイデアでRIBF-SAMURAIでの中性子多体系実験を推進しており、国内外の研究者からなる大きなコラボレーションをまとめています。氏の推進している研究課題はこれからの原子核物理において、ひとつのマイルストーンになるものだと思います。RIBF User groupの代表も務めており、国内の原子核物理学の将来を担っていく研究者です。核物理委員に推薦します。

三輪 浩司 (東北大学 理学研究科 教授)

2022年度より核物理委員を務めさせていただき、早くも4年が経とうとしております。この間、素核研の運営委員を務めるとともに、EIC 有識者会議の委員としても活動する機会を得ました。コミュニティの重要なプロジェクトや施設に関わる委員を務めさせていただいておりますが、その役割を十分に果たしているかについては、いまだ課題も多いと感じております。

しかしながら、原子核コミュニティが今後も活気ある研究活動を展開し、大学生にとって魅力ある分野として継続・発展していくために、微力ではありますが貢献したいと考えております。この4年間、未来の学術構想やロードマップなど、将来計画に関わる議論が数多く行われてきました。核物理コミュニティの将来計画をどのように実現していくのかを、真剣に考えるべき時期に来ていると感じています。

私自身も中心的に関わっている J-PARC ハドロンホールの拡張計画については、ユーザーとしてその実現を後押しするとともに、さまざまなチャンネルを通じて KEK 素核研と協力していくことが重要であると考えております。また、既存施設における研究成果をいかに最大化していくかという点も、ユーザー間で共有すべき重要な課題です。

核物理委員に選出された際には、J-PARC に加え、さまざまな施設で進行中のプログラムや将来計画に目を配りつつ、特にハドロンホール拡張計画においては中心的な役割を果たせるよう努力したいと考えております。また、本分野に多くの学生を呼び込み、将来活躍する若手研究者を育成していくことが、将来の大型プロジェクトを実現する上でも、ますます重要になっていると感じています。そのためにも、原子核物理の魅力を学生のみならず一般の方々にも伝えていく活動にも尽力したいと考えております。

推薦者 澤田 真也 (KEK 素核研 教授)

三輪さんは J-PARC ハドロン実験施設や SPring-8 において多くの大学院生などとともにストレンジネスに注目した原子核・ハドロン物理の研究を推進されています。今後この分野をリードされる方として推薦します。

推薦者 中村 哲 (東京大学 理学研究科 教授)

ストレンジネス核物理学におけるリーダーの一人であり、J-PARC、SPring-8 におけるハイペロン散乱実験を主導し、世界的な成果を挙げている。J-PARC ハドロンホールユーザー会の会長も務めており、現在も核物理委員会の幹事としてコミュニティに貢献している。是非とも核物理委員会委員として引き続きコミュニティに貢献していただきたい。

推薦者 成木 恵 (京都大学 理学研究科 教授)

三輪氏は、J-PARC を中心にストレンジ核物理の研究を牽引してきた第一人者です。卓越した実験技術を有するとともに、当該分野で活躍する多くの人材を育成してきた実績を誇ります。さらに、ハドロン物理学を含む広範な原子核物理分野に深い見識を持ち、今後も分野の発展に対して重要な貢献を果たすことが期待される研究者です。以上の理由から、三輪氏を推薦いたします。

渡邊 裕 (KEK 素核研 教授)

次期核物理委員会委員の候補にご推薦いただきましてありがとうございます。

日本の核物理研究は、大小さまざまな大学・研究機関において推進されており、特色ある加速器施設や実験装置を活用した、世界をリードする実験研究が数多く展開されています。RI ビーム施設としては理研 RIBF が国際的に重要な役割を担ってきましたが、2022年に運用を開始し本格的に稼働している米国 FRIBに加え、韓国 RAONでは国内ユーザー向けのビーム提供が進められており、さらに中国 HIAFは2025年にコミッショニングを迎え、欧州 FAIRは現在建設が進められています。このように国際的な研究環境が大きく変化する中で、核物理研究を取り巻く競争と協調は新たな段階に入りつつあります。

一方で国内に目を向けると、物価や電力価格の高騰、人材確保の困難さなど、実験的研究を継続・発展させる上での課題も顕在化しています。核物理研究に関わる各機関・各分野間の連携と交流を一層促進することで、日本の核物理研究の多様性を維持・強化し、コミュニティ全体の持続的な発展に貢献できるよう尽力してまいります。

推薦者 青井 考 (東京大学 CNS 教授)

多核子移行反応を用いた r 過程第三ピーク核の生成方法に世界に先駆けて着目され、KISS 計画を推進されてきました。大型科研費により KISS1.5 へのアップグレードに着手されているところであり、KEK 素核研和光センターのセンター長として運営面でも活躍されているなど核物理委員会に必要な方です。